**第２学年　道徳科学習指導案**

１　主題名

　　A（１）自主，自律，自由と責任

　　　　　　（自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。）

資料：「住みよい社会に」（出典　『新しい道徳２年』：東京書籍）

２　主題設定の理由

　（１）ねらいとする価値

「自律」とは自分の良心に基づいて規律（行為の基準）を作ることであり，他者の目に左右されるものではない。一方「他律」とは，他者の目によって規律を作ることである。「自律」にも「他律」にもよさはあるが，「自律」の精神が養われると自分の良心によって自ら考え，言動を決定しているという自覚が生まれる。そして，人間としての誇りをもった生き方ができるようになる。

中学２年生は，自由を求める傾向が強くなり，自分で考え，行動することができるようになる。しかし，一方では，自由の意味を履き違えて，自身の行為が周りにどのような影響をもたらすかを深く考えずに無責任な言動をとってしまうこともある。さらに，その傾向は，誰も見ていないところで顕著に現れやすい。

そこで，ときには「他律」も必要だが，本来は，自分の良心に基づいて規律を作って行動していくことが大切だと認識させたい。そうすることで，「自律」の精神を養うきっかけを与え，人間としての誇りをもった生き方を実現していってほしいと考え，本主題を設定した。

　（２）生徒の実態

本学級の生徒は，教師が見ている場面では，学校や学級のきまりを守り，生活することができる。また，教師や級友が困っている姿を見ると，何をしたらよいのかを自ら考え，進んで行動することができる。給食中に牛乳がこぼれてしまったときには，周りで見ていた生徒が素早く雑巾を持ってきて拭いたり，教師が重い荷物を持っているのを見て，「持ちます」と声をかけたりする姿が見られた。このように，「大人が見ている」，「相手のためになる」といった状況で，何をすべきかを自ら考えて行動することができる。一方で，朝の読書を時間通りに始めることや授業の１分前に着席することなど，教師が見ていないところではできていないこともある。それらのことから，生徒の中の規律は，他者の目に基づいて作られていると考えられる。

そこで，他者の目なしに自分を律することの難しさに共感させつつも，本来は，自分の良心に基づいて規律を作っていくことが大切だと考えるきっかけを与えたい。そして，その自律の精神を培うことで，自分に誇りをもって生活していってほしい。

（３）資料について

　　　本資料は，社会の中で防犯カメラがどのように使われているか，どのような効果があるのかということについて取り上げられた新聞記事である。本資料を読むことで，防犯カメラが犯罪やマナー違反を抑制していることを知ることができ，防犯カメラの有効性を感じることができるであろう。防犯カメラ（他者の目）によって規律が作られる「他律」と自分の良心によって規律が作られる「自律」のそれぞれのよさについて考えることができるであろう。

　　　本時では，防犯カメラの有効性を確認することを通して，他者の目によって人の行動が抑制されていることを捉えさせ，他者の目なしに自分を律することの難しさに共感させる。有効性を確認することで，生徒たちは防犯カメラが必要だと考えるだろう。しかし，そこで，防犯カメラの負の側面を引き合いに出すことで，防犯カメラが本当に必要かを考え直すきっかけをつくる。防犯カメラの有効性と負の側面を抑えた上で，カメラでマナー違反を防ごうとすることについて考えさせる。防犯カメラを推奨する意見，防犯カメラに反対する意見が出ると考えられるが，その理由を話し合うことで，人の行動には「自律」と「他律」があるということを認識させる。そして，自分の生活を振り返り，「自律」と「他律」のよさを考えることで「自律」も「他律」も大切であることを気づかせたい。そして，生活の中で自分がどのように行動していくのかを考えることで，「他律」を認めた上で，「自律」していこうという心情を育てたい。

３　本時の学習

　（１）ねらい

「カメラで監視されることによって守られているマナー」について話し合うことで，人の行動には「自律」と「他律」があることを知り，自分や周囲にとってよりよい行動をしていこうとする心情を高めることができる。

（２）準備

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動 | ○教師の支援　◆評価 |
| １．実際の防犯カメラ映像を見る。  ２．資料の範読を聞き，防犯カメラの有効性と負の側面について考える。  ・車のタイヤが切りさかれたり，自転車が盗まれたりすること。  ・駐車違反　　・いたずら  どのような犯罪やマナー違反がカメラによって防がれているだろう。  ・実際にやったのがばれると，非難されたり，捕まったりたりするかもしれないから。  ・他の人に見られているという意識がはたらくから。  防犯カメラがついているとき，犯罪やマナー違反をしない人が多いのはどうしてだろう。  実際に，あなたがカメラで監視されているとしたらどのような気持ちになるか。  ・プライバシーがあるから常に監視されるのは嫌だ。  ・気持ちよいものではない。  ３．カメラによって，マナー違反を防ぐことについて考える。  カメラによって，マナー違反を防ごうとすることをどう思うか。  ＜カメラ推奨派の意見＞  ・カメラがあると，犯罪やマナー違反が減り安心できる。  ・みんながマナーを守るようになるのでカメラは必要だと思う。  ＜カメラ否定派の意見＞  ・防犯カメラはつけたくないので，代わりに自分たちでマナーを守っていくことが大切だと思う。  ・カメラがなくても自分たちで注意し合えばいいと思う。  ４．自分の生活を振り返り，「自律」と「他律」について考える。  自分の生活は「自律」と「他律」のどちらが多いか。  ＜自分の生活の中で自律と他律どちらが多いか＞  ・私は自律できていることが多いと思う。  ・人目を気にして動いてしまうことがあるので，他律が多いと思う。  ＜自律のよさ＞  ・自分で決めているという実感がもてると思う。  ・いろいろなことが自分で考えて決められるようになると思う。  ＜他律のよさ＞  ・他の人の目があるから我慢してできることもある。  ・他律があるから，平和が保たれることもあると思う。  ５．授業の振り返りを記入する。 | ○実際の防犯カメラの映像を見ることで，資料への意識づけをする。  ○防がれている犯罪やマナー違反を確認することで，防犯カメラの有効性を再認識させる。  ○防犯カメラによって犯罪やマナー違反が減ることの背景を考えることで，他者の目なしに自分を律することの難しさに共感させる。  ○ビデオカメラと大型ディスプレイを使い，自分がカメラに撮られているイメージを持たせることで，防犯カメラの負の側面にも気づかせるようにする。  ○小グループで話し合う場を設定することで，全員が話し合いに参加し，考えを伝えられるようにする。  ○カメラを推奨する理由やカメラを否定する理由を話し合わせることで，人の行動には「自律」と「他律」があることを確認する。  ○自らの生活を振り返ることで，自分に照らし合わせて「自律」のよさと「他律」のよさを考えることができるようにする。  ◆自分や周囲にとってよりよい行動をしていこうと考えることができたか。  （発言，ワークシート） |

資料プリント，振り返りシート，大型ディスプレイ，ビデオカメラ，防犯カメラ映像